南アルプス

大井川　赤石沢　　中退

期間：2009 年 9 月 12～14 日
メンバー：L 田中、志満、斉藤（記）
南アルプス屈指の名渓「赤石沢」に行ける機会に恵まれた。メンバーは経験豊富な大先輩の田中さんと志満さんだ。申し分無い沢に頼りがいのあるメンバー、後は私と天気次第だが…。

9/12 8:00 眠い目をこすり、畑薙ダムより東海フォレストのバスに乗り込む。空にはどんよりと厚い雲が立ち込め、ひんやりと寒い。その日の天気予報は曇りのち雨、午後から夜遅くにかけては、強い雨との事。遡行の成功を水量に左右される大きな沢だけに、晴れる事を祈ったが、願いも空しく、8:50 牛首峠でバスを降りる頃には小雨が降り出す。林道脇で入渓準備を整え、沢床へと繋がる階段を降りる。水に浸かった途端あまりの冷たさに思わず、震え上がる。入渓地点の渓相は平凡なゴーロ帯だが、転々と転がるラジオラリヤの赤い岩が、ここが赤石沢である事を教えてくれる。暫く進むと第一関門であるイワナ淵へと着く。深い淵を左岸からへつり、落ち口を残置ハーケン伝いにトラバース気味に登るが、何度やっても滑り落ちてしまう。仕方なく、少し戻り右からフィックスを使い高巻く。結局かなりの時間をロスしてしまった。次々に現れる淵に、寒さの為、極力水に浸からないように進むが、泳ぎを強いられる場所も出てくる。夏の陽射しの下では、それも心地良いだろうが、9 月の小雨の降る中では、まるで修行のようだ。右から左から高巻いたり、へつったりしながら足を進める。高巻き中、先の進路について話していると、田中さんから「ここまで時間が掛かり過ぎている。このペースでは明日中に百間洞まで着く事が出来ない。これから雨が強まってくる事を考えたら、今日はさわら島まで引き返し、小屋に泊まり、明日釣りでもしながら遡行して、明後日、沢下降で下山しよう。」という意見が出た。確かに頑張っている割にいくらも進んでいないが、正直、この敗退という意見に諦めきれない気持ちもあった。あと、その時は雨も止んでいた為、もしかしたら天候が早まって、もう降らないんじゃないの？などと都合のいい予想をしていた。残念だがさわら島ロッジへと向かい沢を下降する。さわら島ロッジに着く直前にドシャ降りになり、逃げ込むようにして小屋の中へと駆け込む。さわら島ロッジは予想以上の立派な設備で「なんかホテルに泊まりに来たみたい。」といいながら快適さを堪能する。一段落して窓から外を見てみると降り始めた雨は強い風を加えてさらに強く降り続いていた。やっぱり田中さんの判断が正しかった事を実感する。もし私がリーダーだったとしたら、無理して突っ込み、どうなっていたかと考えると、自分の未熟さを感じてしまう。折角の小屋泊まりに、ゆっくりと体を休める。

9/13 朝からの快晴、すっきりした体調で再び赤石沢へと向かう。やはり天気がいいと足取りも軽い。増水はしているものの順調にイワナ淵、ニエ淵を越えて行く。この日の予定は北沢出合付近をテン場と決め、足を進める。ゴルジュの中に淵や滝が点在して飽きさせる事が無い。やがて巨岩帯へと足を踏み入れる。よくどこの沢でも巨岩帯と耳にするが、ここのそれは、他とは、スケールが違う。巨岩の間を縫いながら、時には潜り抜け進む。ここでは、人の小ささを思い知らされる。釣れそうな場所を見つけ竿を出すと食べ頃サイズの岩魚がすぐに釣れる。夕飯のおかずが揃ったところでテン場まで足を進める。夜は沢の恵みと志満さんの手料理に舌鼓を打ちながら、焚き火を囲む。快適な宿もいいが、やはり私

はこっちの方が性に合っているようだ。

9/14 また、朝からの快晴。帰り路は北沢から左岸の林道を目指すという話も出たが、時間が読めないという事で沢下降に決まる。さわら島 14:00 発のバスを逃すと大変なので、その方が確実だ。下降も途中からは 2 往復目の道のりとあって、要領良く進み、5 時間半でさわら島ロッジに着く事が出来た。
今回の遡行では残念ながら、中退という事で終わってしまったが、大きな沢での判断の難しさ、厳しさ、その反面大きな魅力を知る事が出来た気がします。是非またリベンジして完全遡行を目指したいと思います。